

学認クラウドオンデマンド構築サービス (OCS) とMCJ-CloudHubの概要

2025年4月23日 大江 和一

国立情報学研究所 クラウド基盤研究開発センター



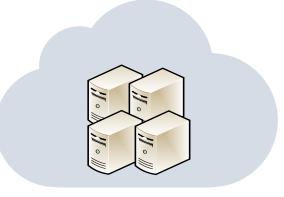
OCSとは

OCS提供の背景(1)

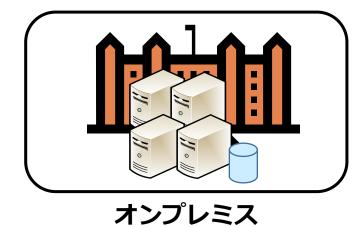


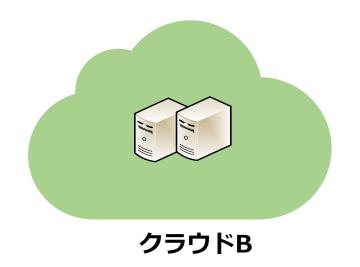
JupyterHubを用 いてPython演習環 境を立ち上げたい





クラウドA





OCS提供の背景(2)



JupyterHubを用いてPython演習環境を立ち上げたい

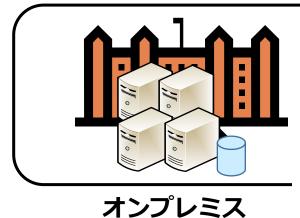
どの環境を選ぶべきか?





高速、だけど単価も高い..

クラウドA



サーバの空きが余 りない ..



クラウドB

OCS提供の背景(3)



構築方法もバラバラ

一度構築すると、容易に移動できない!

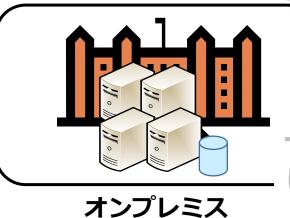
JupyterHubを用いてPython演習環境を立ち上げたい





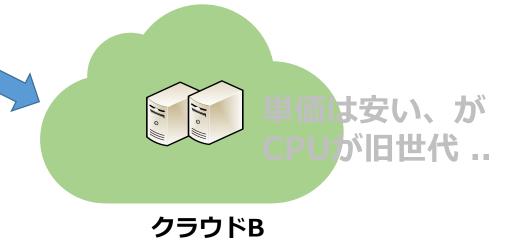
クラウドA

オンプレミス API



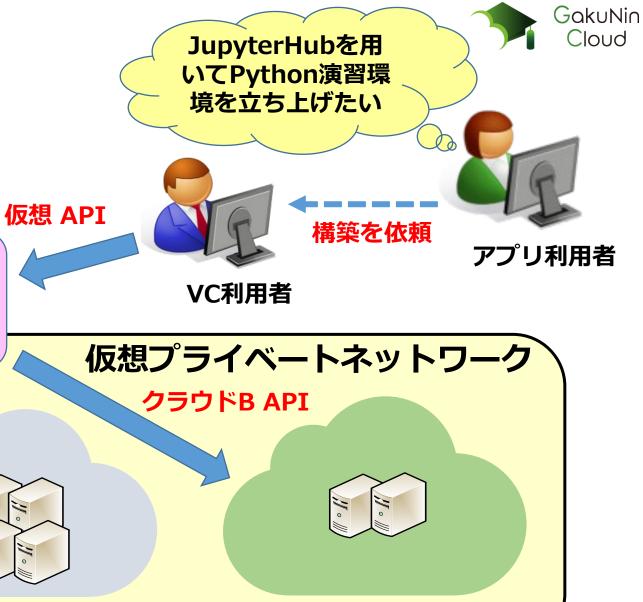
クラウドB API

サーバの空きが余りない..



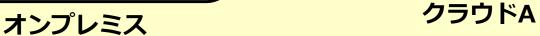
OCSの特徴(1)

仮想APIのみで全ての資源の操作が可能!



クラウドB







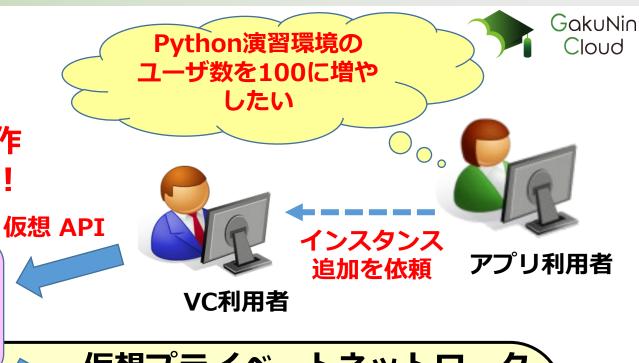
OCSの特徴(1)

Cloud JupyterHubを用 いてPython演習環 境を立ち上げたい オンプレミスに 仮想 API 構築を依頼 JupyterHub環境構 アプリ利用者 築! コントローラ VC利用者 (20 user) 仮想プライベートネットワーク オンプレミス API クラウドB API ~20 user クラウドA API jupyterhub クラウドB クラウドA オンプレミス

GakuNin

OCSの特徴(2)

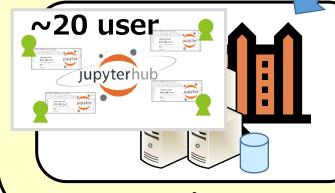
インスタンスの追加も仮想APIからの操作 でクラウド・オンプレ環境を跨いて可能!



コントローラ

仮想プライベートネットワーク クラウドB API クラウドB

Ser DE DE LA API



オンプレミス

オンプレミス API

クラウドA

OCSの特徴(2)

クラウドAのインスタンスを 追加してJupyterHubを運 用!

Python演習環境の ユーザ数を100に増や したい





アプリ利用者

GakuNin

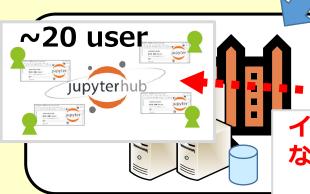
Cloud

VC利用者

仮想プライベートネットワーク



オンプレミス API



オンプレミス

クラウドA API

コントローラ

インスタンスが足ら なくなったのでクラ ウドAから補填

クラウドA



クラウドB API

クラウドB



OCSの特徴(3)

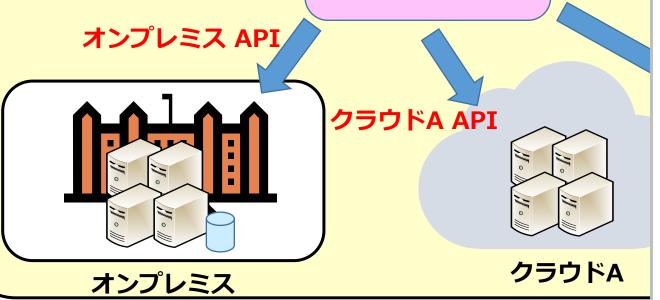


仮想APIはJupyter Notebookを介して アクセスするため、構築作業の再現性が高 い!

他者が作ったJupyter Notebook(テン

プレート)も流用可能。

コントローラ



```
■1.1 初期化Jupyter Notebookの記
                                  述例
仮想 AP<sup>▮ [1]:</sup> □
                    parameters
                     1 vcc_access_token = "c
                     2 testname = "TEST-2022-03-15"
            # [2]:
                     1 from common import logsetting
                       from vcpsdk.vcpsdk import VcpSDK
                        # VCP SDK の初期化
                     8 sdk = VcpSDK(vcc access token)
                        # VCP SDK バージョン確認
                     11 | sdk.version()
                    13 # UnitGroup作成
                    14 my_ugroup_name = "03_sample" + testname
                    16 | ugroup = sdk.get_ugroup(my_ugroup_name)
                    17 if ugroup is None:
                           ugroup = sdk.create_ugroup(my_ugroup_name)
                    vcplib:
                      filename: /home/jovyan/vcpsdk/vcplib/occtr.py
                      version: 20.10.0+20201001
                    vcpsdk:
```

OCSの特徴(3)



仮想APIはJupyter Notebookを介して VC利用者となる敷居は低いで

アクセスするため、構築作業の再現性が高り

(1 i

他者が作ったJupyter Notebook(テン ^{仮想}

プレート)も流用可能。

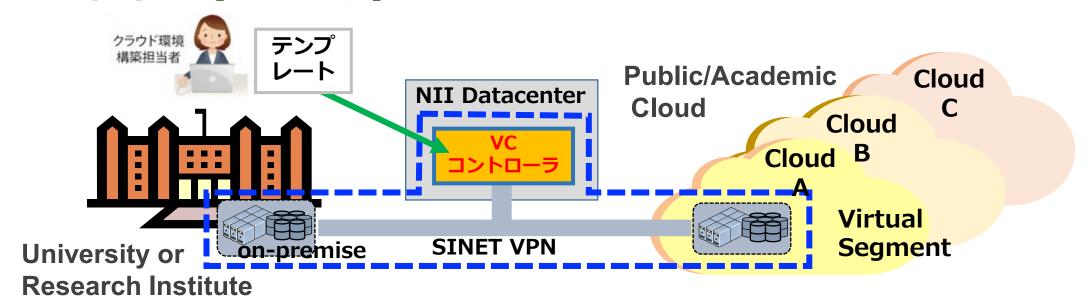
コントローラ



```
■1.1 初期化Jupyter Notebookの記
                                  沭例
仮想 AP<sup>▮ [1]:</sup> □
                    parameters
                     1 vcc_access_token = "c
                     2 testname = "TEST-2022-03-15"
            # [2]:
                     1 from common import logsetting
                     2 from vcpsdk.vcpsdk import VcpSDK
                       # VCP SDK の初期化
                     8 sdk = VcpSDK(vcc_access_token)
                       # VCP SDK バージョン確認
                    11 | sdk.version()
                    13 # UnitGroup作成
                    14 my_ugroup_name = "03_sample" + testname
                    16 | ugroup = sdk.get_ugroup(my_ugroup_name)
                    17 if ugroup is None:
                           ugroup = sdk.create_ugroup(my_ugroup_name)
                    vcplib:
                     filename: /home/jovyan/vcpsdk/vcplib/occtr.py
                      version: 20.10.0+20201001
                    vcpsdk:
```

OCSの特徴(まとめ)



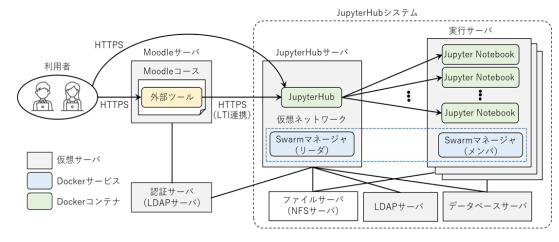


- ■テンプレートを用いて、オンプレミスやクラウド(IaaS)上にアプリケーション実行環境を構築するサービス
 - ■仮想プライベートネットワーク(VPN)内に利用する資源を囲い込み、仮想コントローラ(VCコントローラ)から操作することで、全ての資源を統一的に利用できる。
 - ■VCコントローラの操作は、可読性が高いテンプレート(JupyterNotebook)からの操作が可能。

利用例 (講義演習環境)



- MCJ-CloudHubとは
 - 山口大学とNIIで共同開発した講義・演習システム
 - ■山口大学で運用していたオンプレミスシステムをOCSテンプレートから構築・運用出来るように拡張
 - ■山口大学固有設定等の一般化
- OCS+MCJ-CloudHubの特徴
 - システム管理者と利用者(教員・学生)を分離
 - ■利用者は、GUI操作のみで演習可能
 - ■システム管理者は、障害等が発生しない限り 特別なサポートは不要(年度初めに構築するのみ)
 - 特定クラウドにロックインされない
 - オンプレとクラウドを跨った環境を作れる
 - ■例、オンプレ資源が枯渇したときのみクラウドを利用



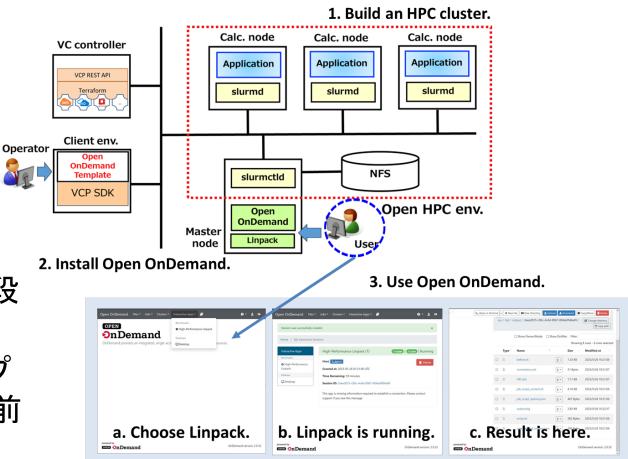
MCJ-CloudHubの概要

(「複数科目で共同・同時利用可能なWeb型プログラミング教育支援システムのアプリケーションテンプレート開発」より引用)

利用例(HPCクラスタ)



- Open OnDemandとは
 - 概要: 初心者がHPCクラスタの前提知 識なしに機械学習などのアプリケーショ ン実行を可能とするシステム
 - 課題: 構築・運用が容易でない
- OCS + Open OnDemandの特徴
 - OCSテンプレート化することでOpen OnDemand環境を容易に構築できる手段を提供
 - 従来から提供していたOpen HPC テンプレートを用いて構築したHPCクラスタが前提





MCJ-CloudHubの概要



MCJ-CloudHub開発の背景

- ■山口大学で運用中の講義演習システム
 - ■特徴
 - コンピュータシステムに詳しくない文系学部の教員・学生でも容易に利用可能で、 且つ、管理者の負担も少ない
 - ■利用者(教員・学生)は、GUIからの操作のみで演習を行える ■課題の配布・回収・採点は、GUIから全ての操作が可能なnbgraderを採用
 - ■システム管理者は情シス教員等スキルのある方を想定し、年度ごとに構築すれば運用可能な設計
 - ■課題
 - 山口大学オンプレミス環境に依存しており、他大学のオンプレミス環境やクラウド 環境での運用が難しい
- ■そこでOCSから運用・構築を可能にしたMCJ-CloudHubを山口大学と共同開発しました!
 - ■OCSアプリケーションテンプレート化することで、各機関のオンプレミス環境やクラウド環境での構築が可能に
 - ■OSSの最新化、及びMoodleとの連携方法の汎用化等も併せて実施

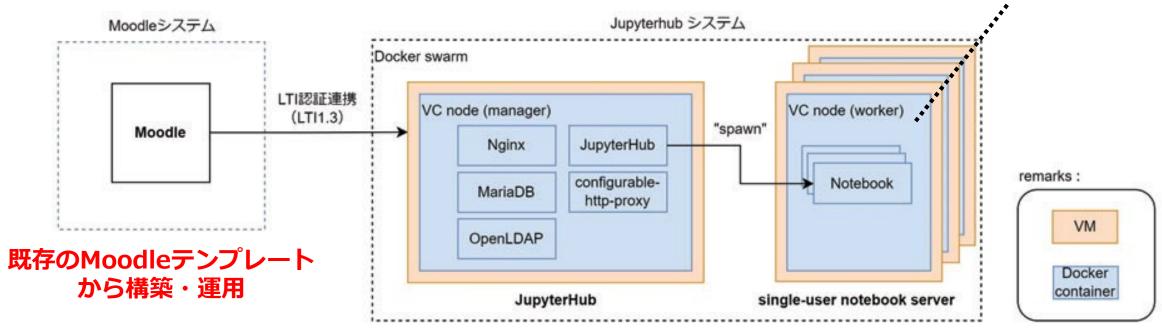
MCJ-CloudHubの概要



https://github.com/nii-gakunin-cloud/ocs-templates/tree/master/Moodle-Simple https://github.com/nii-gakunin-cloud/mcj-cloudhub

両テンプレートは上記からダウンロードできます!

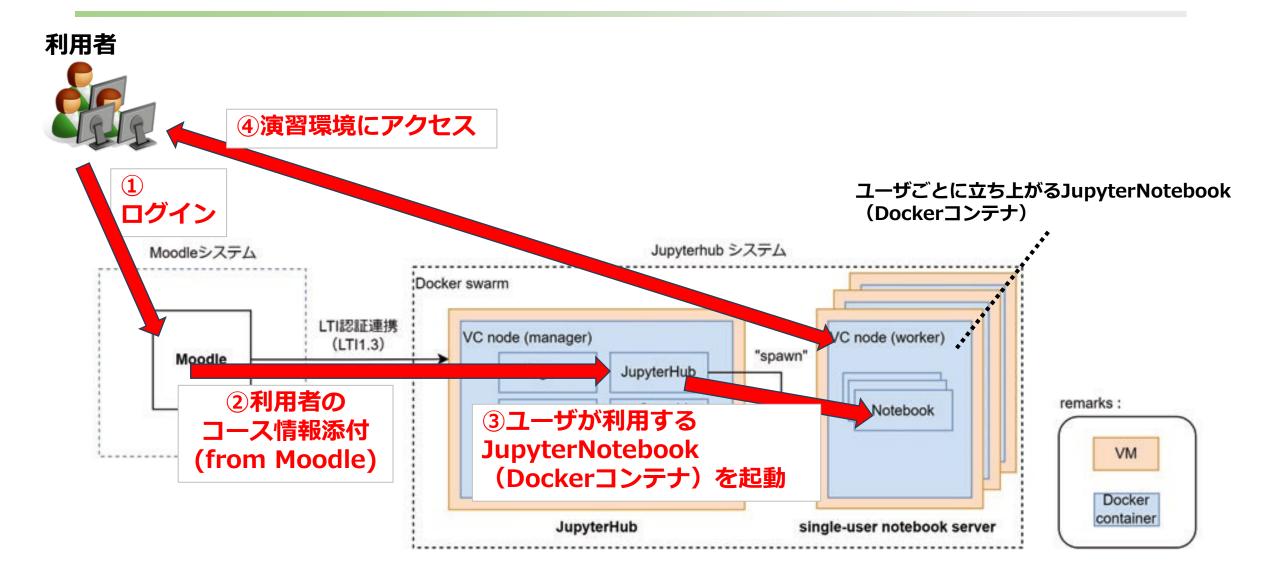
ユーザごとに立ち上がるJupyterNotebook (Dockerコンテナ)



新たに開発したMCJ-CloudHubテンプレートから構築・運用



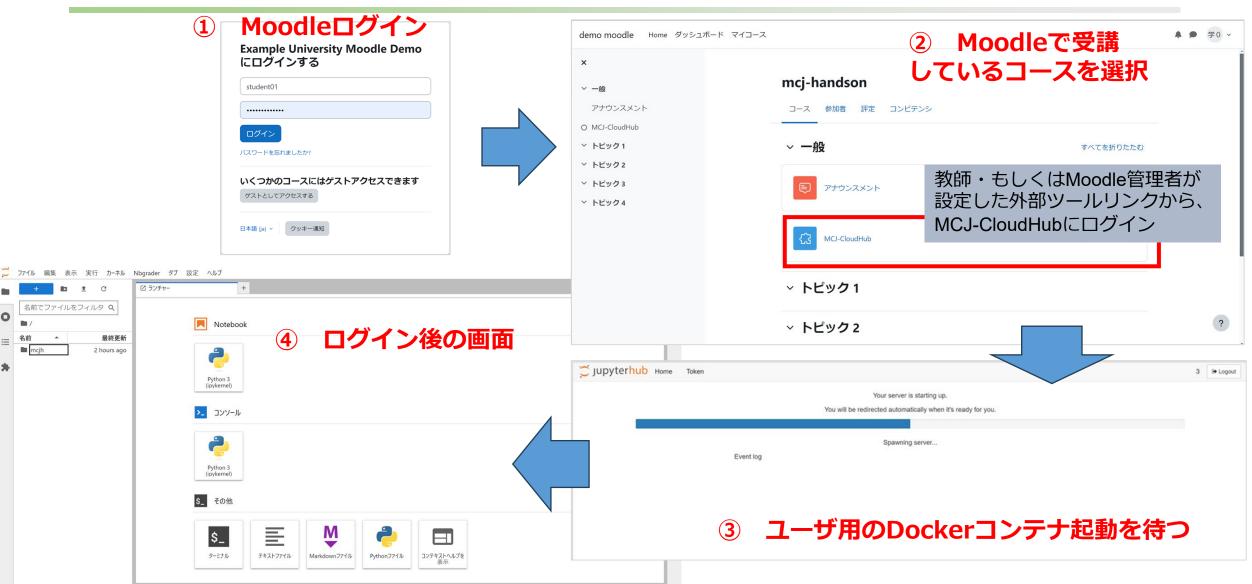
MCJ-CloudHubの動作フロー



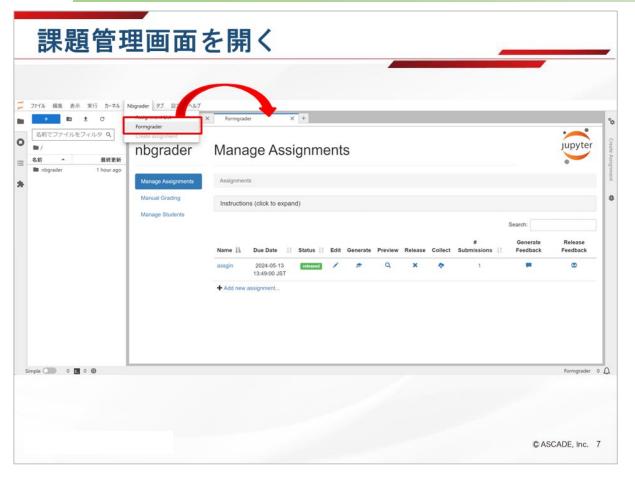


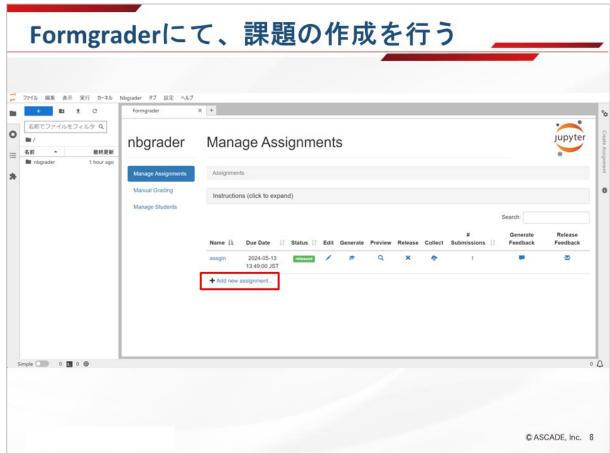
MCJ-CloudHubへのログイン

Simple 0 0 0 0

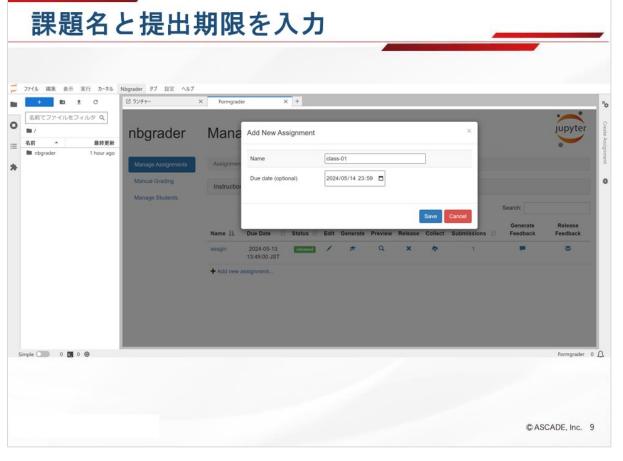


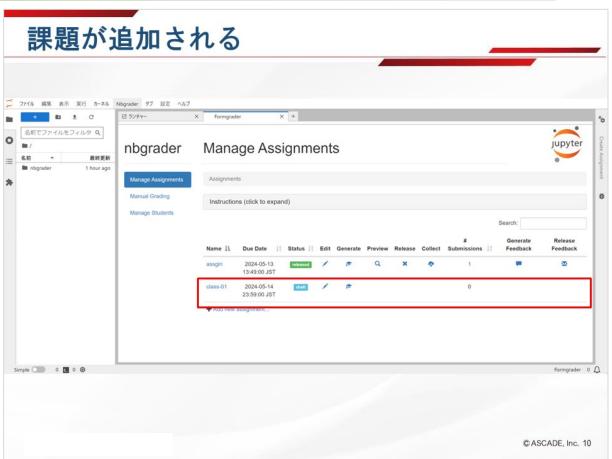




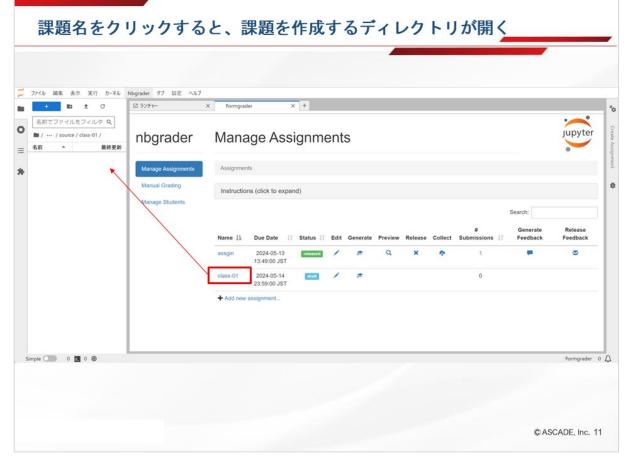


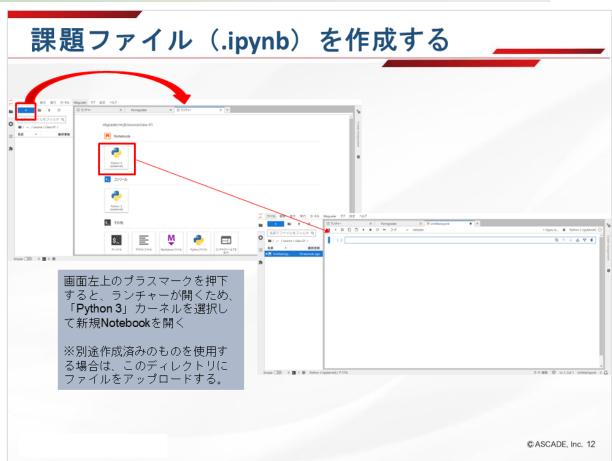




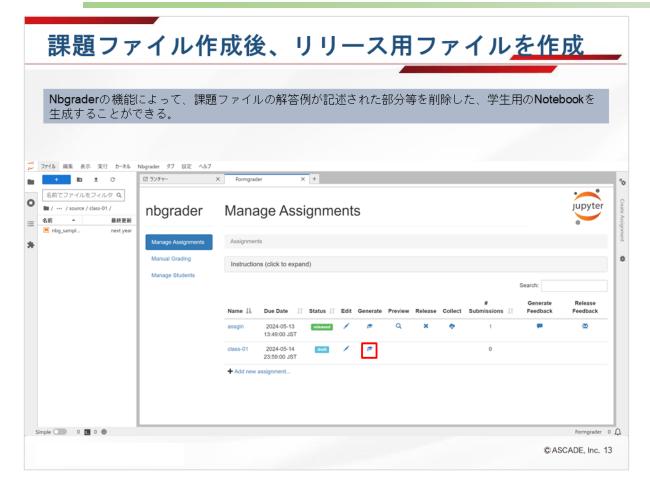


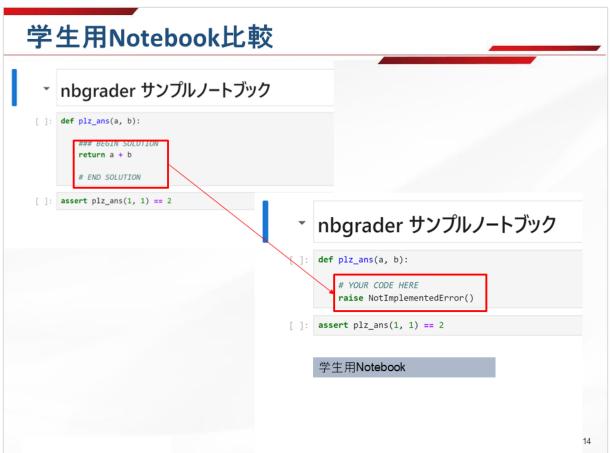




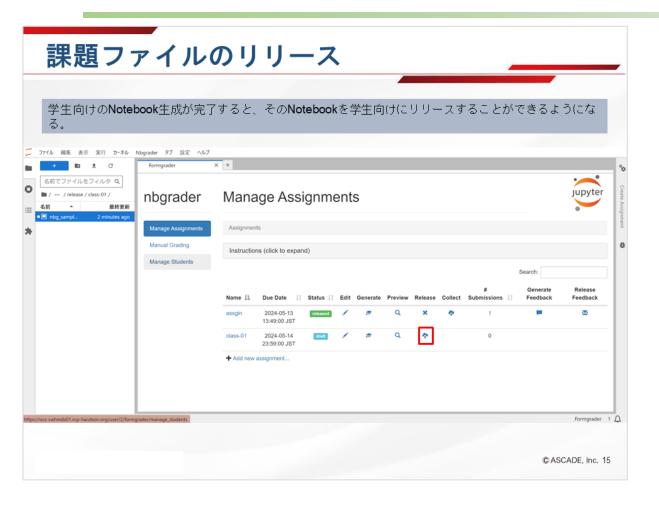








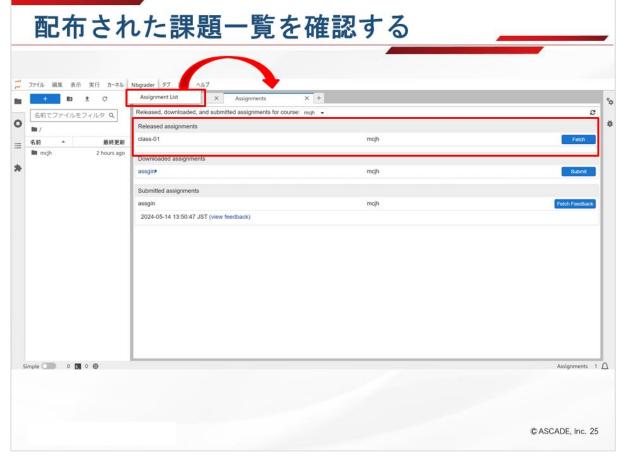


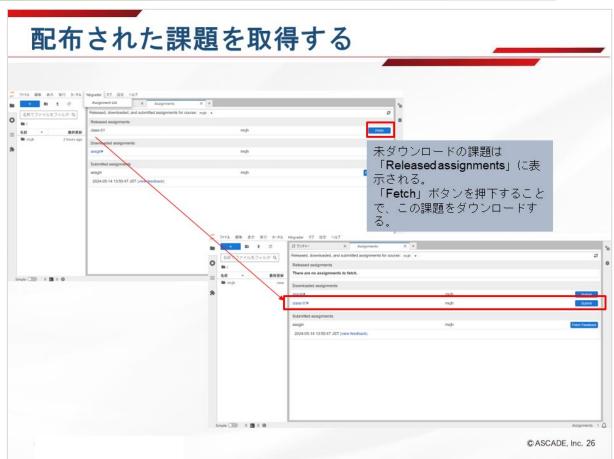


課題の回収・採点(自動・ 手動)もGUIからの操作で 行えます!



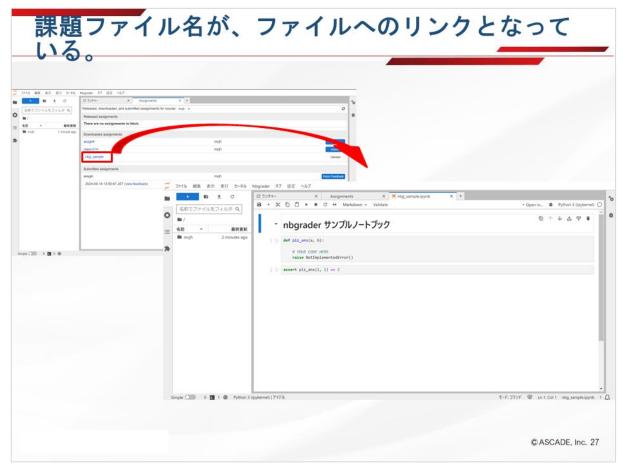
課題の取得と提出(学生側)

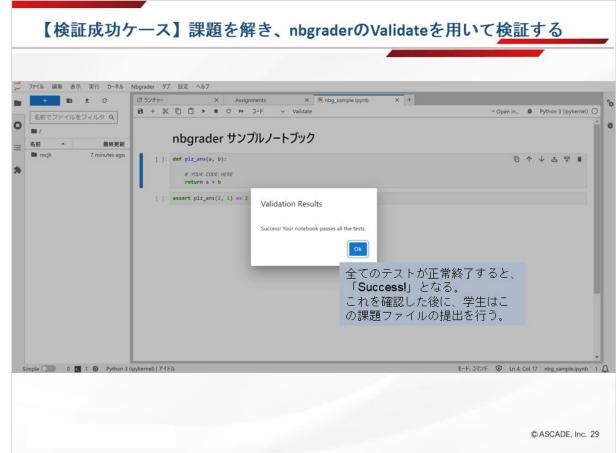






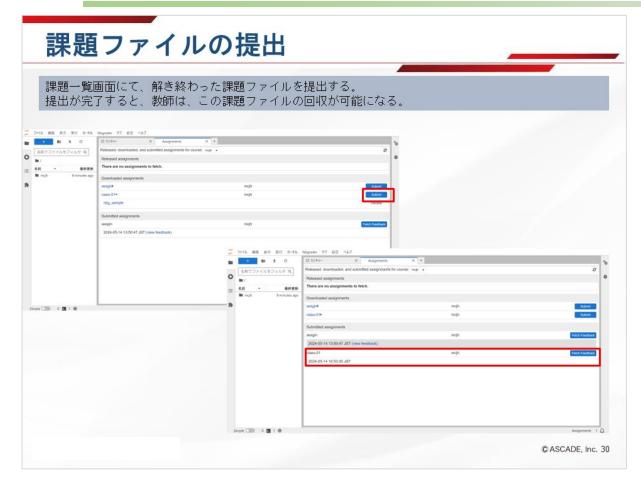
課題の取得と提出(学生側)

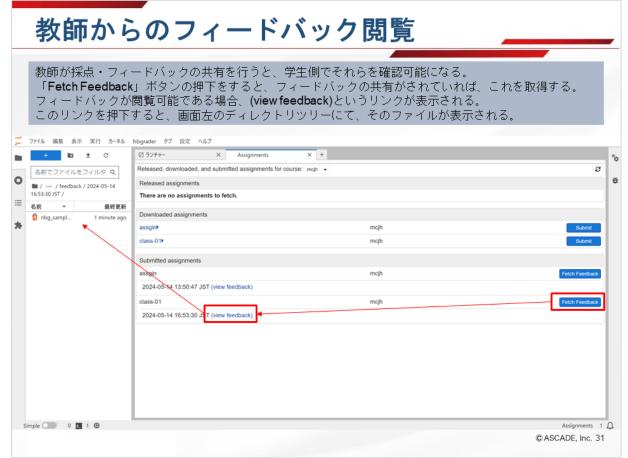






課題の取得と提出(学生側)





まとめ



■MCJ-CloudHubの特徴

- ■受講生が選択した科目ごとに統一した実行環境を提供
- ■nbgraderからの課題の配布・回収が可能
- ■Web 型であるため授業時間以外でも課題への取り組みが可能
- ■利用者(教員・学生)は全ての機能をGUIからのみで操作可能
- ■OCSから他機関のオンプレミス環境やクラウド環境での利用も可能

■今後の予定

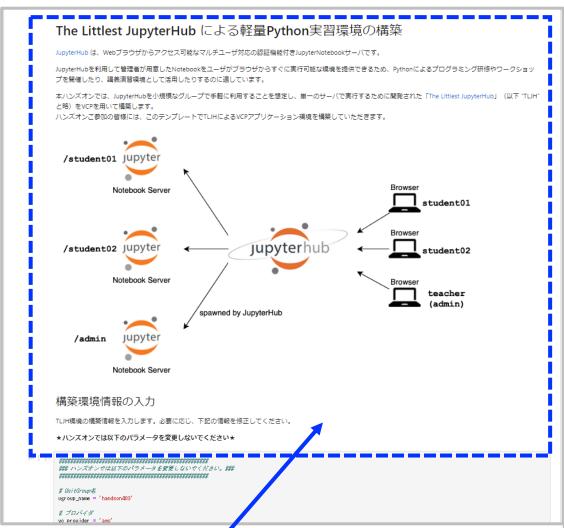
- ■MCJ-CloudHubの機能強化と試運用による品質向上
- ■ハンスオンセミナー等による他機関への利用促進活動の実施
- ■NII オープンフォーラム2025(6/16-18)の以下のトラックにてMCJ-CloudHubも取り上げる予定です。ご参加をご検討頂けると幸いです。
 - 6/18 12:30-14:00 大学の教育研究DXを支える基盤サービス



Thank You.



OCSの特徴(テンプレート)他者が作ったテンプレートの流用も可能 Cloud



図表を組み合わせた説明を挿入できる

スクリプトを組み込むことができ、ここからvcノードのspecを指定 実行できる。実行結果を残すことも出来る。

unit_group = vcp_create_ugroup(ugroup_name) spec = vcp_get_spec(vc_provider, vcnode_flavor) # spec オブション (ディスクサイズ 単位:GB) spec_volume_size = volume_size # spec オブション (固定割当!Pアドレス) spec_ip_addresses = [fixed_ipaddress] import os ssh_public_key = os_path_expanduser('"/.ssh/id_rsa.pub') spec_set_ssh_pubkey(ssh_public_key) Unitの作成とVCノードの起動 Unitを作成します。Unitを作成すると同時に VCノード (ここでは Amazon EC2インスタンス) が起動します。処理が完了するまで1分半~2分程度かかります。 # Unitの作成 (同時に VCノードが作成される) unit = unit_group_create_unit('tljh-node', spec) 疎通確認 まず、ssh の known_hosts の設定を行います。 その後、VCノードに対して uname -a を実行し、ubuntu x86 64 Linux が起動していることを確認します。起動していない場合は、spec.image に誤りがありま す。本テンプレート下部にある「環境の削除」を実行、 spec.image を修正、全てのセルを unfreeze してから、最初から再実行してください # unit group, find in addresses() は UnitGroup内の全VCノードのIPアドレスのリストを返します ip_address = unit_group_find_ip_addresses(node_state='RUNNING')[0] は今は1つのVCノードのみ起動しているので [0] で最初の要素を取り出す print(ip_address) # ssh 級定 !ssh-keygen -R {ip_address} # "/.ssh/known_hosts から古いホストキーを削除する !ssh-keyscan -H {ip_address} >> "/.ssh/known_hosts # ホストキーの登録 # システムの確認

TLJH (The Littlest JupyterHub) 環境の構築

VCノード上に、本ハンズオン用に用意したThe Littlest JupyterHubのコンテナイメージを使用して環境を構築します。

TLJHコンテナイメージの取得

Issh {ip address} uname -a

VCノード上にコンテナイメージを取得するために docker pull を実行します。

OCSを利用したアプリケーション配備例



■オンプレ・複数の実クラウドを跨ってのアプリケーション配備が可能!

